農・業界

今月の数字

米国のコメの生産費

15,067円/10a

米国における2002年産のコメの全生産費（家族労働費や自作地地代も含めたもの）は、1万5067円／10a。それに対して米価は60kg当り546円と低迷し、粗収益は7210円／10aと全生産費を大幅に下回っている。

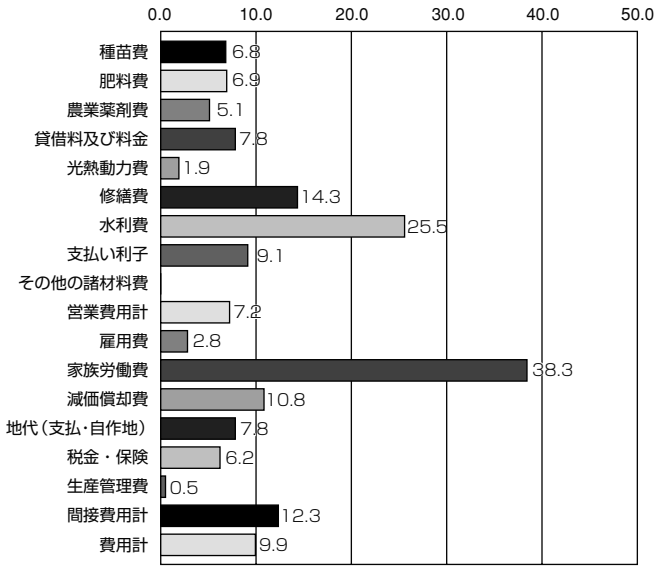
しかも2002年だけが下回っているのではない。少なくともここ4年は、家族労働費や自作地地代を差し引いてもなお赤字続きである。米国には米国の生産構造の特徴があるから、生産費の合計だけを日米で比較して輸入脅威論を唱えるのは意味がない。

そこで費目別の数字を比べてみる。「日本は地価が高く米国の45倍以上だから生産費が高い」とよく言われるが、地代で比べると7・9倍と費用計の倍率より低い。地価のせいにするのは〝逃げ〟ではないか？　新規参入者は農地を買いたいとは思っていない。問題なのはむしろ圃場の分散、作業効率だ。

米国と比べて圧倒的に高いのは、家族労働費だ。実に38倍である。なぜこんなに高いのか。日本の場合、10a当り労働時間は雇用が1・47時間、家族は30・92時間（2003年）である。米国は雇用が0・47時間、家族は0・56時間！ウソかと思うほど低い数字である。詳細をチェックしてみる必要はあるが、それにしても作業効率は段違いである。

競争力の差は土地よりも人件費、それも労働時間にある。制約となっている労働時間をいかに短縮するか、作業をいかに効率的に管理するか。技術や機械などの要因もからんでくるが、労働時間は短縮できないものだろうか。

（松田恭子）



コメ生産の日米比較（アメリカ=1.0）

注1）2002 Agricultural Resource Management Survey, USDA, ERS.
米及び麦の生産費（平成14年度）、農水省をもとに作成。
注2）104円／ドルで換算した。
注3）自己資本利子、副産物価格は含めない。

		アメリカ 円／10a	日本 円／10a	日本／アメリカ アメリカ=1.0
営業費用	種苗費	522	3,533	6.8
	肥料費	1,117	7,705	6.9
	農業薬剤費	1,424	7,263	5.1
	貸借料及び料金	1,737	13,597	7.8
	光熱動力費	1,559	3,007	1.9
	修繕費	525	7,537	14.3
	水利費	269	6,852	25.5
	支払い利子	60	546	9.1
	その他の諸材料費		2,069	
	営業費用計	7,212	52,109	7.2
間接費用	雇用費	711	2,000	2.8
	家族労働費	1,208	48,205	38.3
	減価償却費	2,175	23,578	10.8
	地代（支払・自作地）	2,755	21,793	7.8
	税金・保険	408	2,533	6.2
	生産管理費	599	276	0.5
	間接費用計	7,855	96,385	12.3
	費用計	15,067	148,494	9.9